

拝啓

アメリカ、コロラド州の丸山です。突然の御連絡に失礼致します。余り長く御無沙汰しており「丸山はだれだ」と疑問される方もいらっしゃると思います。

実は、御存知の方もいらっしゃると思いますが、去年私はアメリカで“Escape from Manchuria [満州からの脱出]”と題する本を英語で書き上げ、出版しました(www.amazon.co.jpを御参照)。

終戦直前の満州には百七十万の一般日本人（軍人、軍属を除いて）が住んでおりました。日本の敗戦一週間前にソ連軍が満州に侵入し、占領し、全ての邦人は満州に取り残されました。日本人は飢え、寒さ、病気で死んで行き、或いはソ連軍や匪賊などに殺され、一日2,500人が命を失っていました。最も犠牲を払った邦人は、日本国並びに天皇陛下などに励まされ、渡満して満州北部を開発していた開拓団です。恐ろしい逃避行の最中、集団自決に強いられたり、自分の子供を捨てたり中国人に譲ったり、我が娘を中国人の嫁に余儀なくさせたり、すざましい犠牲を払いました。現在でも未解決の残留孤児問題も当時に基いた課題です。満州に取り残された邦人全ては日本との連絡は完全に途切れ、職はなくなり、銀行口座は全て凍結され、日本人全てが母国に帰れる日を待つしかありませんでした。その状況の中、1946年の3月に三人の無名日本人男性が満州を脱出し、蒋介石やカトリック教会、並びに中国からの日本人引き揚げに関わっていたアメリカ軍の援助により無事日本に戻り、日本で引き上げ運動に専念し、ついにマッカーサー元帥に直接面会し、在満日本人の引揚げをコロ島という港からの実現を果たすことに成功しました。以上が著書の概要です。

尚、どうして私のような日系アメリカ人三世が満州悲劇に関する本を書く「権利」があるかと思われる方もいらっしゃると思います。実は、満州を脱出した3勇士のリーダーは私の父、丸山邦雄だったのです。母と、私（当時5歳）を含めた4人兄弟を、大連に残して、父は新補八郎、武蔵正道両氏と共に密かに満州を脱出したのです。三人の活躍やマッカーサー元帥、カトリック教会などの人道的善意をアメリカ並びに世界に知ってもらいたく、私は2010年にアメリカで著書を英語で出版しました。

さて、この度日本の皆様に報告させていただきますが、“Escape from Manchuria”はクリスマスの日（12月25日）に日本で日本語版が発売されます。優れた知り合いの翻訳者（高作自子さん）に邦訳され、北海道の出版会社柏櫓舎（はくろしゃ）が、題を「満州 奇跡の脱出」として発売します。柏櫓舎のホームページ（www.hakurosy.com）に本の情報が載っております。（ホームページ左上の“新刊告知”をクリックして頂けば、本の情報が出ます。）

満州の悲劇は日本人にも余り詳しく知られていません。特に若い読者にあの頃の事実を知って頂く事を願っています。また、満州から引き揚げてきた生存者の方々や、満州から引き揚げてきた親戚がある皆様、或いは満州で親戚、いとしい知り合い等を亡くされた皆様、「満州 奇跡の脱出」をお読みになって頂ければ幸いです。

無名三人の活躍は未だに日本国政府に認められていません。その理由は、3人は日本政府の代表でもなく、全くの秘密で満州を脱出したので、引き揚げに貢献した当時の要人（吉田茂、高崎達之助、佐藤英作、マッカーサー元帥など）は皆亡くなっており、記録が残り残されていません。私は6年以上に渡って父や武蔵氏などが残した伝記の事実を確認した結果、本を書き上げました。無名三人は既に亡くなっていますが、私としては、いつかは日本国が3人の貢献を正式に認めることを心から願っております。

なお、情報としてですが、現在日本全国どこにも満州で犠牲になった日本人の為の記念館はありません。しかし、幸いに長野県下伊那郡の阿智村に現在「満蒙開拓平和記念館」の建設が予定されています。私は今年の5月に長野県阿智村でその事業に関わっていらっしゃる方々にお会いし、彼らの熱心と情熱に感動しました。ぜひ記念館のホームページ www.manmoukaitaku.com をご覧になってください。現在、事業の方々が一生懸命資金調達に励んでいます。やっと、やっと徐々に満州の悲劇が日本の国民に伝えられるようになります。著書が少しでもそれに役立てば、書いた価値があると喜びます。

もう一週間で発売される「満州 奇跡の脱出」を是非お読みになって下さり、価値があると思われれば、知り合いの方々にも勧めて下されば、心から感謝いたします。長いメールになってしまい、お許しください。

最後に、新年の御挨拶を申し上げます。素晴らしい新年をお迎えください。

ポール邦昭丸山より
Paul K. Maruyama